hat's happening? 日本の印象

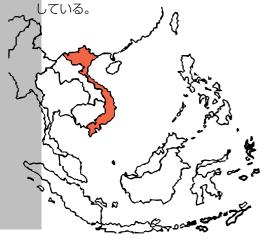
大学院先端技術科学教育部環境創生工学専攻博士前期課程1年

LE THI XUAN THUY

レティスンテゥイ[ベトナム]

日本に来てから6年が経過した。この 長い間に日本について様々な印象が残っ たが"日本が学び社会"だという印象が 一番強かった。これは外国人が異文化を 学べる場所という意味だけではなく、誰 でも学習できる環境が作られており、多く の日本人がその環境に積極的に参加す る印象を意味する。

日本では、様々な分野を指導する教育 機関がたくさんあり、学ぶ人のニーズに 応えている。更に、多くの国民は同様に 教育を受ける機会を有する。学校に通わ なくても、自宅のテレビを付けるだけで、 普段学校で学べない知識を身に付けるこ とも可能である。特に教養番組は視聴者 を楽しませると同時に様々な知識を与え ている。視聴者がつまらなく感じないよ うな日本の番組における放送の仕方がと ても素晴らしいと思う。ニュースの場合 でも、年齢を問わず誰にとっても分かり やすくするために、ボードからコンピュー タグラフィックの映像まで色々な手法が 用いられ、画面の下方向にも字幕が映っ ている。私はそれらに対してとても感心







佐川奨学生との記念撮影(前列右から2番目が筆者)

良い社会環境に恵まれている日本人 は受け身にならずに自ら学び社会に入ろ うとしている。電車で本を読む人々、数 多くの学会を設立したこと、その参加費 がいくらでも払って、その場で知識を交 換する日本人が少なくないこと等は学び に対する日本人の積極的な行動を示す ものである。このような行動をもたらす 動機はどんなものか、どのようにして生 じるのか。この問いには今非常に関心を 持っている。教育に関する社会的なサポ ート、いわゆる学び社会がその動機を生 じさせるに違いないだろう。そして、日本 人には自己実現の価値観が強いかもしれ ない。興味を持っていることならば、いく ら資源を投資しても構わないため、様々 な役立つ情報を収集して、その分野をマ スターする。



ベトナムと日本の環境保全合宿セミナーの記念撮影

今まで意識しなかった母国のことは日常生活で触れ合う日本人のおかげで、よく理解できるようになった。それは2カ国の異文化から母国をより知ると言っても良い。この印象によって日本の優れた環境をベトナムにも反映させ、日本のようにベトナムを発展させたい気持ちが強くなったのである。